



市議会だより

かかみがはら

発行

各務原市議会

岐阜県各務原市那加桜町1-69
電話058-383-2001

編集

市議会だより編集委員会



芝生のグラウンドで運動会 那加中央保育所

9 月 定 例 会

目 次

主な議案説明	2
審議結果	3
委員会審査	4
市長へ基本計画に関する要望書	6

委員会調査報告	7
市政を問う 一般質問	
20年度決算の総括	8
新型インフルエンザの感染予防	10
市民の声、議会素描	12

平成20年度一般会計決算

総額428億4428万円を認定

平成21年第5回各務原市議会定例会（9月定例会）を8月31日から9月25日の26日間の会期で開催しました。

今期定例会の初日に市長から提出された議案は、20年度一般会計決算の認定をはじめとする20案件で、委員会、本会議審議を経て、いずれも原案のとおり認定・可決・同意しました。また、前期基本計画に関する要望決議のほか1案件が提案され、原案のとおり可決しました。なお、本会議最終日に市長から工事委託協定の変更議案と、議員から議員派遣の件について3議案が提案され、すべて原案のとおり同意・可決しました。

第5回定例会に市長から提出された議案は、

- ・決算の認定 7件
- ・予算の補正 5件
- ・人事の案件 2件
- ・条例の改正 2件
- ・市道路線の認定・廃止 4件
- ・工事委託協定の変更 1件

の合計21案件です。
主な議案内容は、次のとおりです。

20年度 一般会計決算

20年度は世界的な不況の影響により、地方財政



鵜沼空中歩道（新鵜沼駅側）

は極めて厳しい状況にあります。

本市は行財政構造改革やカイゼン運動などにより、都市経営をより強化することで財政の健全性

を確保しながら、新総合

計画、新市建設計画に基づき主要事業を着実に実施し、「元氣な各務原市」を目指してきました。

特に「美しい都市」を目指し、環境行動都市を推進する事業、全市民参加型の総合防災訓練事業をはじめとした市民の安全・安心に役立つ事業や、（仮称）那加小網線道路（仮称）各務原大橋）整備事業、鵜沼駅周辺市街地整備事業などの未来への基盤投資事業を積極的に展開してきました。

20年度一般会計の決算額は、歳入428億44

20年度の主な事業

- こども医療費助成事業
- 東海中央病院改築助成事業
- 古紙類資源回収推進事業
- グリーンリサイクル推進事業
- （仮称）那加小網線道路整備事業
- 鵜沼駅周辺市街地整備事業
- 各務野櫻苑整備事業
- 学校給食センター調理業務等委託事業

21年度補正予算

21年度一般会計補正予算（第3号）

経済危機対策を実施するための国の補正予算に伴う子育て応援特別手当事業、住宅手当緊急特別措置事業をはじめ、リサイクル推進事業など当面の行政需要に対応するために歳入歳出予算の補正を行うものです。

○歳入の主なもの

・国庫支出金
1億9723万8千円

28万1783円、歳出
398億6468万3753円となりました。

・県支出金

282万8千円

・繰越金

5913万7千円

○歳入の主なもの

・子育て応援特別手当事業費
1億6592万9千円

・住宅手当緊急特別措置事業費
2426万6千円

・リサイクル推進事業費
1400万円

・地域用水環境整備事業費
1325万円

この結果、21年度一般会計の予算規模は、2億5960万3千円を追加し、補正後の予算総額は421億7610万5千円となります。

議員派遣

全国市議会議長会主催の海外都市行政調査団の一員として4名の議員が参加するものです。

○豪州・ニュージーランド都市行政視察

10月7日から9日間、岡部秀夫議員を派遣するもので、豪州・サザランド市など6市の特色ある施策、高齢福祉などについて研修します。

○米国・カナダ都市行政視察

10月13日から10日間、長縄博光議員・横山富士雄議員を派遣するもので、カナダ・トロント市など6市の特色ある施策、文化遺産保護、高齢福祉などについて研修します。

○中国都市行政視察

10月15日から8日間、梅田利昭議員を派遣するもので、北京市など3市の「調和のとれた社会」を目指した経済の持続的、安定的な再開発の現状と課題などを研修します。

審議結果（9月定例会）

- 第2次新総合計画前期基本計画に関する要望決議・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 総合計画特別委員会の廃止決議・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 20年度一般会計決算の認定・・・・・・・・・・ 原案認定・賛成多数
- 20年度国民健康保険事業特別会計決算の認定・・・・・・・・・・ 原案認定・賛成多数
- 20年度老人保健特別会計決算の認定・・・・・・・・・・ 原案認定・全会一致
- 20年度介護保険事業特別会計決算の認定・・・・・・・・・・ 原案認定・賛成多数
- 20年度後期高齢者医療事業特別会計決算の認定・・・・・・・・・・ 原案認定・賛成多数
- 20年度下水道事業特別会計決算の認定・・・・・・・・・・ 原案認定・全会一致
- 20年度水道事業会計決算の認定・・・・・・・・・・ 原案認定・賛成多数
- 21年度一般会計補正予算（第3号）・・・・・・・・・・ 原案可決・賛成多数
- 21年度国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 21年度老人保健特別会計補正予算（第1号）・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 21年度介護保険事業特別会計補正予算（第2号）・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 21年度後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第1号）・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 各務原市固定資産評価審査委員会委員の選任（喜多川紀氏）・・・・ 原案同意・全会一致
- 人権擁護委員候補者の推薦（梶浦博子氏）・・・・・・・・・・ 原案同意・全会一致
- 各務原市国民健康保険条例の一部を改正する条例・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 各務原市都市景観条例の一部を改正する条例・・・・・・・・・・ 原案可決・賛成多数
- 市道路線の認定（市道鵜 1322号線ほか2路線）・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 市道路線の廃止及び認定（市道稲 821号線ほか2路線）・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 市道路線の廃止及び認定（市道稲 18号線ほか8路線）・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 市道路線の廃止（市道稲 152号線）・・・・・・・・・・ 原案可決・全会一致
- 工事委託協定の変更（鵜沼駅自由通路新設工事）・・・・・・・・・・ 原案同意・全会一致
- 議員派遣の件（豪州・ニュージーランド都市行政視察）・・・・・・ 原案可決・賛成多数
- 議員派遣の件（米国・カナダ都市行政視察）・・・・・・・・・・ 原案可決・賛成多数
- 議員派遣の件（中国都市行政視察）・・・・・・・・・・ 原案可決・賛成多数

委員会審査



総務常任委員会

20年度一般会計決算の認定(所管分)

▼質疑 ふるさと納税の件数と金額は。

▽答 本市をふるさととして納められたものは10件で、145万円の寄付があった。

市民で出身地などの他の地方公共団体に納められた寄付は47件である。

▼質疑 市税収納率が93.88%と前年度よりも下っているが、その理由は。

▽答 電話催告システムなどによりできる限り収納に努めているが、秋からの不況で離職したことなどによる影響があると思われる。

▼質疑 総合防災訓練を

今期定例会に、市長から提案された20年度一般会計決算の認定をはじめとする18案件について、9月14日から17日までの間、常任委員会を開催し、審査を行いました。

それぞれの常任委員会では、審査を付託された議案に対して多くの質疑がありました。

主な質疑内容は次のとおりです。

各小学校区でも実施した成果は。

▽答 全市民参加型の訓練として市民4900名が参加した。

避難所の体制が分かって良かったなどの声も多く、市民の防災意識の向上を図ることができた。



市民参加の防災訓練

▼質疑 地域一丁基本計画に基づいた、情報化による市民サービス向上の

中身は。

▽答 大きなものは鶴沼空中歩道に設置した自動交付機や収納対策として導入した催告システムである。

21年度一般会計補正予算(所管分)

▼質疑 国民投票法に基づき、登録人名簿のシステムを作るとのことだが、今までの選挙人名簿との違いは何か。

▽答 公職選挙法では20歳からだが、国民投票法では18歳以上が投票できるという点や住所要件に違いがある。

民生消防
常任委員会

20年度一般会計決算の認定(所管分)

▼質疑 全国の生活保護

率が12.7%、県が3.5%に対し、本市は21年1月時点で2.7%と低くなっているが要因は。

▽答 働く職場が他県よりあることや扶養の意識が高いことが要因と考えられる。

▼質疑 環境市民会議が6回開催されたが、どのような内容だったのか。

▽答 地球温暖化、循環型社会、環境意識の向上などをテーマに分科会で検討したものを全体会で集約する形で開催された。

分科会では住宅の緑化、商品の過剰包装の削減、地元農産物の利用などについて意見が交わされた。

▼質疑 北清掃センターから出るスラグ・メタルの利用方法と売却額は。

▽答 スラグはすべて下水道工事の埋め戻し材などの公共事業に利用し、メタルは精錬所でリサイクルしている。

売却額はスラグが212万円ほど、メタルは83万円ほどである。

▼質疑 救急救助活動の



公共事業に利用されるスラグ

費用は1件当たりになるといくらくらいか。

▽答 救急1件当たりに換算すると6〜7万円になる。

▼質疑 タクシー代わりに救急車を呼ぶような例はあるのか。

▽答 基本的には要請があれば、どんな場合も出動しているが、6割程度は軽症である。

21年度一般会計補正予算(所管分)

▼質疑 民主党政権になったことで、補正予算の修正などの状況に変化はあるのか。

▽答 情報収集に努めているが、今のところ情報はない。

経済教育 常任委員会

20年度一般会計決算の認定(所管分)

▼質疑 姉妹都市である韓国春川市との交流の状況は。

▽答 昨年10月以降、竹島問題により、本市に派遣されていた春川市の職員は一時帰国した。

現在はスポーツ交流も実施していないが、民間レベルなどで多少の交流があると聞いている。

▼質疑 国際交流事業で行われている相談業務の内容は。

▽答 就業相談や帰国に関する相談が多かった。

▼質疑 男女共同参画プランの市内企業の実施状況は。

▽答 市役所も一つの事業所としてアクションプランを策定している。

市内の比較的大きな事業所では取り組んでもらえていると考えている。

▼質疑 学校給食でどれ

くらいの割合で県内産の農産物が使われているか。

▽答 米は100%、農産物全体では50〜60%くらいは県内産を使用している。

▼質疑 市内に5力所ある市民農園の利用状況は。

▽答 川島地区には空きがあるが、その他4力所はすべて利用されており、場所によっては抽選をしなければならぬ。

良い場所が確保できれば、市民農園を増やしていきたい。



市民農園（鵜沼朝日町）

▼質疑 航空宇宙科学博物館の入場料収入と採算は。

▽答 12万人が入館し、前年度並みの5124万

円の収入があり、収益率は43%となっている。

▼質疑 不登校児童・生徒の実態は。

▽答 ここ数年、不登校の割合は減少している。

全国的に見ても低い数値だが、ゼロに近づける努力をしていく。

▼質疑 グリーンスタジアムのナショナルトレーニングセンターの利用対象者は。

▽答 日本ホッケー協会が選んだ強化選手しか使えない。

今後、国体選手なども使用できるよう文部科学省と調整中である。

建設水道 常任委員会

20年度一般会計決算の認定(所管分)

▼質疑 土木費全体で、21年度に繰り越す事業の件数と総額は。

▽答 12事業で、9億8919万円余である。

▼質疑 道路維持補修についての要望件数と完了

件数は。

▽答 自治会から文書で要望された215件、690力所の要望に対し、465力所が完了し、実施率は67・4%である。

その他、電話などによる要望に対して367件を緊急処理し、全体の実施率は78・7%である。

▼質疑 那加小網線の整備はどれくらい進んだのか。

▽答 用地は全体面積のうち62・9%を取得できている。

工事は総延長2625mの計画路線に対し、362m、13・8%が完了した。

20年度水道事業会計決算の認定

▼質疑 営業外費用が昨年と比べかなり減っている理由は。

▽答 繰り上げ償還に伴う支払利息の減少によるところが大い。

▼質疑 地震対策で八木山低区配水池に緊急遮断弁を設置したが、市全体での遮断弁の数は。

▽答 市内に5力所である。

▼質疑 5力所の配水池遮断弁で、緊急時の水量はどれくらい確保できるのか。

▽答 全体で2万9500トン確保できる。

これは7〜10日間ぐら



緊急遮断弁（八木山低区配水池）

20年度下水道事業特別会計決算の認定

▼質疑 下水道供用開始地区の早期接続のため、職員を配置したが効果は。

▽答 職員1名と嘱託職員1名の2名で戸別訪問を行っている。

20年度は1113軒の訪問に対し、51軒の接続があり、効果は出ている。

『前期基本計画に関する要望決議書』を森市長に提出

各務原市議会は、第2次新総合計画基本構想を議決後、総合計画特別委員会を中心として22年度から26年度の5カ年の前期基本計画について、肌で感じる市民要望を踏まえながら調査をしました。

調査の中で委員から数多く出された意見・要望は、「第2次新総合計画前期基本計画に関する要望決議」として総合計画特別委員会でもとめ、本会議に提出し全会一致で可決しました。

なお、この要望決議書は、8月31日に議長・総合計画特別委員長から市長に手渡されました。

第2次新総合計画前期基本計画に関する要望決議（要約）

都市戦略1 安全・安心の都市

【災害対策の推進】

●市民と行政が一体となって迅速な危機管理体制を早期に構築されたい。

また、災害弱者に対するサポート体制の整備や医療機関との連携強化を図られたい。

【消防救急体制の充実】

●消防力のマンパワーと救急救命体制の高度化・迅速化に努められたい。

都市戦略2 人づくり都市

【学びの機会の充実】

●現代社会で失いつつある礼儀や規律、そして生きる力を誰もが学べる教育環境の整備を図られたい。

都市戦略3 人にやさしい都市

【地域福祉の推進】

●地域社会の核となる自治会加入を促進する施策を実施されたい。

また、各種ボランティア団体との一層の連携を図られたい。

【高齢者福祉の推進】

●活力ある都市を支える担い手として市が特に位置付けている「準生産年齢人口(65歳から74歳)」に対して、就労支援や社会活動に参加できるよう特色ある支援に努められたい。

【障がい者（児）福祉の推進】

●早期段階からの療育体制の

一層の充実を図るとともに、小・中学生の養護教育の支援に努められたい。

さらに、自立支援施策や在宅福祉サービスの充実、家族へのサポート体制の構築、「福祉の里」の機能充実に一層努められたい。

【保健・医療の充実】

●東海中央病院を中心とする中核的な病院と地域の診療所の連携、総合的な医療体制の充実に努められたい。

【地球環境の保全】

●地球温暖化対策として、太陽光発電など自然エネルギーの導入に努められたい。

都市戦略4 文化創造都市

【スポーツの振興】

●体育協会等のスポーツ組織の充実に向けた支援、「ぎふ清流国体」競技会場の整備を図られたい。

また、国際級大会が招へいできる武道場を併設した新総合体育館及び陸上競技場の整備を推進されたい。

【都市の中の自然の創造】

●樹木の管理については、周



辺自治会の意見を取り入れながら、適正な維持管理に努められたい。

都市戦略5 産業活力都市

【サービス産業の振興】

●商工会議所などの関係機関とより一層連携し、にぎわいのある商店街の活性化対策に努められたい。

【観光・交流の拡大】

●航空宇宙科学博物館については、本来の博物館としての機能をより充実させるとともに、健全運営を図られたい。

【農林業の振興】

●地産地消の推進、他分野との連携により、新たな販路拡大など都市近郊農業の振興を図られたい。

都市戦略6 未来への基盤づくり

【住環境の整備】

●住宅困窮者の居宅確保のため、民間賃貸住宅の借り上げ方式の導入や市営住宅の増設を検討されたい。

【交通体系の整備】

●地域の実情にあった新たな交通・移動サービスの導入の検討や、ふれあいバスのさらなる利便性向上に努められたい。
●生活道路は、市民要望を的確にとらえ維持向上に努められたい。

また、広域幹線道路については、積極的な整備促進に努められたい。

委員会 調査報告

経済教育常任委員会

《期間》7月14日～16日

○愛媛県今治市

「学校給食の地産地消事業」

価格面で「すべてが安価」というわけにいかず苦勞されているが、地元の漁協や農協と共同して「地産地消」に取り組んでいる。地元産の小麦粉を導入した「パン食」を月に数回実施している。

○広島県呉市

「中心市街地活性化・シティーセールズ・企業立地優遇施策」

軍港として栄えた街で、今も造船関係で街並みが形成されているが、造船不況などで厳しい環境にある中、「企業立地が施策の大きなウエイトを占める」と位置付けて売り込み活動を活発に行っている。

また、「大和ミュージアム」を運営し、観光客・

修学旅行生の獲得に力を注いでいる。

商店街活性化施策は、空き店舗に進出して一定の効果を創出できた店主に対し、100万円の報奨金を出す「来てくれ店舗公募事業」などを行い、活性化に努めている。

○広島県三原市

「不登校児童生徒・保護者への支援事業」

不登校児童への施策を講じている行政が多い中、その家族への支援も取組んでいる。自立・学校への復帰には、先生・子ども・親の相互連携が大切である。

また、先生同士の連携も大切という考え方で事



担当から説明を受ける委員（三原市）

業運営している。

建設水道常任委員会

《期間》7月21日～23日

○秋田市

「交通バリアフリー基本構想実施状況と課題」

高齢者や障がい者だけではなく、誰もが利用しやすいようユニバーサルデザインの観点から、歩道などを一体的に整備するもので、秋田駅前の案内表示など人にやさしい歩道の実例は大変参考になった。

○青森県弘前市

「都市景観の形成」

無電柱化や植栽などについて市民の協力により、美しい都市景観が形成され、空き店舗がほとんどなくなるなどの成果を上げていた。

雪国の風土が作り上げた除雪などによる「みち守り」の精神が土台となった住民協働型の維持体制は興味深いものであった。

○八戸圏域水道企業団

「災害対策と危機管理」

企業団では、八戸市周辺の7市町に安心で安全

な水を供給している。

今年1月に6日間にわたって9万世帯に影響する大規模漏水事故を経験しており、事故対応など危機管理の実例として大変参考になった。



耐震水道管を視察する委員（八戸市）

市議会だより編集委員会

《期間》8月20日～21日

市議会だより編集委員会は、東京の日本経営協会で行われた議会広報誌編集講座に参加し、3日間にわたり研修を受けた。研修は3部構成で、内容的には、いかに市民に興味をもって広報誌を読んでいたかが中心で、今後の編集に当たり、非常例を挙げると、読まれ

る記事は見出しで決まる。

見出しを見れば記事の内容が分かるといっても過言でないこと。

写真は、大きさに変化をつけて余白をうまく使うなど、レイアウトに気を使いながら記事といかに関連付けるか。

文字の大きさ及び書体の使い分けやカラーの有効的な使い方などを研修した。

編集委員会では、実務的な今回の研修を生かして、難解な用語の多い議会の言葉を、読者の皆さんに分かりやすい「市議会だより」に編集して発行していきたいと考えている。



編集実務研修

市政を問う 一般質問

9月9日、10日の2日間、市政に対する一般質問を行いました。質問をした議員は次のとおりです。(発言順)

浅野健司、関浩司、太田松次、永治明子、波多野こうめ、三和由紀、池戸一成、吉岡健、横山富士雄、足立孝夫、高島貴美子、今尾泰造、水野岳男

議員の質問および市長以下関係部長の答弁は次のとおりです。

20年度決算の総括

健全財政を維持

▼問 決算全体の特徴と今後の課題は。

▽答 20年度は「二兎を得る都市」実現のために積極的な予算編成と行財政構造改革による財政力の強化を図ってきた。

今後は「夢ある都市」を実現するため、これまで維持してきたプライマリ・バランス(基礎的財政収支)の黒字や財政健全化判断比率の健全性を維持していくことが課題である。

▼問 20年度決算の財政状況は。

▽答 鶴沼駅周辺市街地整備事業や河跡湖公園の完成など積極的な事業展開を行った中で、プライマリ・バランスの黒字を6年連続で堅持している。

▼問 市債の資金調達は

※ 地方財政健全化法とは、地方公共団体のすべての会計の収支の状況、借入金の償還負担の大きさ、将来負担しなければならない経費の大きさなど5つの指標(健全化判断比率、実質公債費比率など)で算定し、その団体の財政状況に関する情報を広く開示することを目的としています。

5つの指標のうち1つでも一定の基準以上となった場合は、財政健全化計画などを定めて早期の健全化に取り組む必要があります。

危機管理体制

▼問 市は地域の公民館

どのように行ったのか。

▽答 一般会計については、全額を民間金融機関から資金調達をしており、年利は0・85%、1・21%で低利率な借り入れを行っている。

▼問 ※地方財政健全化法に基づく指標の21年度の数値は。

▽答 21年度算定の実質公債費比率は3・1%で、県内市町村で第一位となった昨年度の数値をさらに改善しており、引き続き健全財政に努めていく。

を避難所に指定していないが、地域の公民館などに避難した場合の対応は。

▽答 過去の大災害のときには、地域の方が集まり避難所となっている。

そのときには自治会、自主防災組織を中心に活動することになるが、必要な物資を現地連絡所から援助する体制を確保していく考えである。



避難所に設置している防災倉庫

▼問 各家庭での災害に対する意識の向上を図るための取り組みは。

▽答 昨年度より実施している全市民参加型総合防災訓練への参加促進や防災マップ・避難路マップの回覧、防災ハンドブ

ックの全戸配布など、さまざまな機会を通じて防災意識の向上に取り組んでいる。

▼問 障がい者や一人暮らし老人などの要援護者の救助、避難体制は。

▽答 災害時要援護者台帳に基づき、自治会長、民生児童委員、地域の方と協力して、避難や避難所生活の支援を行う。

また、福祉センターなどを専用の一時的避難所に指定し、職員が避難生活を支援する体制をとっている。

定額給付金

▼問 8月31日現在の定額給付金の給付状況は。

▽答 受給資格者が5万6505世帯で、すでに5万4145世帯に給付した。

辞退されたのは14世帯、申請がないものが236

0世帯であり、給付率は95・82%である。

▼問 外国人への対応は。

▽答 言葉の壁が最大の障害と想定し、申請書の記載要領に英語、中国語、スペイン語などの多国語版を準備した。

また、受付会場でも国際交流員の活用と通訳の臨時雇用により、スムーズに給付が進んだ。

ぎふ清流国体

▼問 国体の運営・サポート体制は。

▽答 24年の「ぎふ清流国体」において、本市を会場にホッケー・軟式野球・銃剣道の3競技の開催が決まっており、PRに努めている。

県や競技団体と連携し、準備に万全を期していく。

▼問 選手やコーチの宿泊先などのサポート体制は。

▽答 全国からの選手団受け入れは、宿泊計画を立てる県と連携して進めていく。



ミナモ

魅力ある都市へ

▼問 市の将来人口をどのように想定しているのか。

▽答 第2次新総合計画において、10年後の人口を15万人と設定している。

▼問 人口を増加するための施策は。

▽答 都市の中の自然・歴史・文化を備えた美しいまち、高い水準の教育、医療体制の充実など、魅力的なまちづくりを戦略

的に展開する。

▼問 流入人口の増加は市の活性化につながると思うが、具体的施策は。

▽答 商業、サービス業の振興が交流人口を増やす重要な要素であり、各務原キムチや河川環境楽園など、地域資源を活用した振興策を行っている。

▼問 商店街の活性化とは何を行っているのか。

▽答 商店街が実施するイベントに対する助成や空き店舗活用支援助成などを行っている。

また、20年度より那加地区の商店街をモデル地区とし、商店街・商工会議所・中部学院大学・市が協力して産学官による活性化策を検討している。

冒険塾

▼問 初めての試みだった4泊5日で無人島に行った冒険塾の活動について

での評価は。

▽答 物の大切さや仲間と協力し合う大切さがよく分かったという子どもが多く、苦しさの中でもがんばり抜いたたくましさがあった。

子どもの成長を確認でき、成果が多く意義ある事業であった。

来年度以降も継続したい。

▼問 子どもたちは、どう危機管理意識をもって行動したのか。

▽答 子どもたちで医療班を編成し、事前に熱中症対策を調べるなど、子どもたち自身に危機意識を持たせた。



無人島で食事の準備（冒険塾）

羽島用水

▼問 14年度から始まった羽島用水の環境整備事業はいつ終わるのか。

▽答 22年度には全長6185mの整備が完了する予定である。

▼問 雑草の管理、処分はどうなっているのか。

▽答 前渡西町の区域では地元ボランティアグループ、それ以外の区域ではシルバー人材センターに除草などの業務を委託している。



羽島用水上部に整備された歩道・水路

新型インフルエンザの感染予防

手洗い・うがい・マスクの着用を

▼問 新型インフルエンザ発生初期の対応は。

▽答 4月28日から市健康危機管理対策本部を設置し、情報収集に努めている。

5月には、発熱相談センター窓口の案内、咳エチケットの徹底などの周知案内チラシを自治会を通じて回覧した。

▼問 医療機関の対応は。

▽答 患者数の増加により7月24日から一部を除き、すべての医療機関で患者を診察する体制となった。

市民に対しては、「診療所で受診する前に電話で相談のうえ、マスクを着用して受診してほしい」と呼びかけを行っている。

▼問 重症化しやすい高齢者、妊婦、乳幼児などへの対策は。

▽答 市のウェブサイトを、広報紙などで手洗い、うがいやマスクの着用を呼

びかけている。

なお、国では新型インフルエンザワクチンの確保と接種方法などの検討が進められており、特に重症化しやすい人に対しては、優先的に接種される方針である。

具体的に方針が示されれば、迅速に対応していく。



新型インフルエンザ対策の啓発(本庁ロビー)

▼問 学校・保育所での予防策や流行した時の取り組みは。

▽答 予防対策として、手洗い・うがいの徹底を指導している。

学校では児童生徒が学級で2名以上インフルエンザA型と診断された場合は、学級閉鎖を行い、感染拡大の予防に努める。保育所においても、同様の休園措置をとる。

福祉の里

▼問 福祉の里の利用者や、医療ケアが必要な重度障がい者の利用が増えているが、職員の負担が増えているのでは。

▽答 施設の特性や専門性に基づき、現場の人員を多くしている。

特に、障がい児施設については、正規職員の比率を高くし、国の基準以上の人員配置をしている。

今後、業務内容の精査を行い、段階的な職員の増員を考えている。

▼問 福祉の里の将来的な位置付けは。

▽答 相談支援機能の充

実を図り、適切なサービスを提供できるように、常に福祉事業団と綿密な連携を取っている。

今後、障がい者の総合複合施設として幼・保・小の連携を図り、福祉事業団を支援していく。



福祉の里（朝のスタッフ打ち合わせ）

▼問 介護施設で人工透析の患者を受け入れることはできないか。

▽答 介護施設での受け入れは難しい状況にある。今後、受け入れをしてもらえるように、施設や関係機関と調整していく。

▼問 人工透析患者が入院できる病院の開設要望があるが、どう対応するのか。

▽答 人工透析患者が入院できる病院が開設されることは、地域医療の充実を進める上で大変良いことと考える。病院開設については、要望趣旨を踏まえて対応していく。

子育て支援

▼問 こんにちは赤ちゃん訪問事業の状況は。

▽答 20年度の訪問件数は930件で、対象家庭の86%である。

▼問 留守などで訪問できなかった家庭への対応はどうしているのか。

▽答 里帰り期間が2、3カ月の方も多くあり、乳幼児健診までに訪問できない場合もある。

留守家庭に対しては、最初の乳幼児健診である4カ月検診時に説明して、赤ちゃん訪問を実施している。

▼問 乳幼児健診を受診しなかった方への対応は。

▽答 健診を受診しなかった家庭には、母子保健推進員が訪問し、次回の健診の受診案内を行っている。

▼問 小児虐待の本市の状況は。

▽答 20年度の児童虐待相談は延べ211件あり、子どもの人数は41人となっている。

そのうち5人が児童養護施設に入所している。

▼問 虐待の主な原因は。

▽答 育児の協力者がいない、経済的不安、親や子ども自身の問題など、複雑な事情が絡んでいる。

▼問 要保護児童に対する各関係機関との連携は。

▽答 子どもに関わる機関である市内の内科医、子ども相談センター、警察や人権擁護委員などの代表により、要保護児童対策地域協議会を立ち上げており、支援が必要ない家庭の早期発見・対応、適切な援助及び発生防止に努めている。

豪雨災害

▼問 今年の夏は市内でも豪雨災害があったが、被害状況は。

▽答 前渡地区や川島地区などで床下浸水8件、敷地内浸水4件、道路冠水2件との報告を受けている。

▼問 要望内容と件数は。

▽答 要望内容は、水路の改修2件、側溝の改修3件、側溝の新設2件、道路冠水解消3件、盛土の要望は1件であった。

▼問 本市も山際に建物があるが、土砂災害の心配はないのか。

▽答 土砂災害は毎年のように日本各地で発生しており、本市においても、土砂災害の恐れがないとは言えない。

県において土砂災害防止法に基づき、基礎調査を開始されており、市内

でも今年度から調査が行われている。



上戸排水機場（境川流域総合治水事業）

▼問 上戸排水機場は完成し、稼働しているが、ため池までの導水路はい

つごろ完成するのか。

▽答 上戸排水機場に流れ込む主な幹線導水路には、上中屋雨水幹線、上戸雨水幹線、下切雨水幹線があり、下流から上流に向け、水路整備を進めている。

今年度は、排水機場のゲート操作に必要となる導水路として、上中屋雨水幹線の整備を進めており、来年度中には完了の見込みである。

▼問 上戸排水機場の機

能を生かすためには、排水路の能力を検討する必要があるのでは。

▽答 前渡西町地区を流れている上戸雨水幹線は水路の断面が小さいため、この夏の豪雨で床下浸水や道路冠水が発生した。

また、この幹線は、水路敷地が狭い場所や道路下の地下排水溝が急に曲がっているところがあり、水路の拡幅だけでは改良できないため、新たな排水路の計画を行い、水路整備を検討していく。

生活困窮者の住宅の確保

▼問 生活困窮者のために、民間賃貸住宅を借り上げて、公営住宅として供給する考えはないか。

▽答 生活困窮者のための公営住宅の戸数は足りており、考えていない。

▼問 国が住宅手当緊急特別措置事業として住宅

費を補助しているが、市独自で上乗せする考えは。

▽答 今回の事業は、離職者の就労・生活支援を行う雇用対策を補完する制度として国が実施するもので、就労意欲のある離職者に対する新たなセーフティネットとして創設された臨時的な措置であり、その住宅扶助基準額は妥当な額と考えている。

▼問 河跡湖公園の駐車場を夜間施設しているが、その理由は。

▽答 夜間の車両の騒音、不法投棄など近隣に迷惑となることがないようにするため、施設している。



河跡湖公園駐車場（川島地区）

よさこい踊り

「おどりん祭」への想い

11年前全国おかみさんサミットが岐阜で開催された時、北海道のよさこいのイベントがスクリーンで紹介され、瑞浪のおかみさんチームが踊りを披露して下さいました。その時蘇原の商店街活性にはこの「よさこい」しかないと思い、瑞浪の七夕まつりと名古屋のど真ん中祭りを見に行き、早速おかみさん会の人たちとよさこいチーム「炎舞連」を立ち上げ第一回おどりん祭を開催しました。

最初は5チームだけでしたが年を重ねるごとにチームが増え、今年は23チームもの参加を得ることができました。

また悪天候にもかかわらず全チームキャンセルもなく、ずぶぬれになって演舞して下さい、各チームの方々には、ただ頭の下がる思いでした。

最後の総踊りでは、踊り子全員が心一つになり、踊りの輪を広げ感動の中「今年も楽しく踊ることが出来ました。本当にありがとうございました。また来年もおどりん祭をやして下さい。絶対参加します」と、踊り子さんが、鳴りひびき、感激の



蘇原柿沢町
酒井一枝さん

涙があふれ止まりませんでした。

何をするにも、一人の力では何もできません。振興組合の役員の方々、炎舞連のスタッフ、他の団体の方々、沢山の人の協力があったからこそ何事も成し得ることが出来ます。

人と人との深いつながり

り、各チーム同士のお互いが協力し合ってイベントが成り立ち、祭りを盛り上げようと強い思いが、見ている人たちに喜びと感動を与える。よさこいだからこぞだと思えます。町全体に暖かさが感じられ、すごく楽しいと言つて下さい。

炎舞連を立ち上げた時いつか自分たちのチームでど真ん中祭りに出たいと目標を持ち、やっと3年前に参加できたときは、本当に感無量でした。昨年、今年と続けて出場したことは、私にとっても最大の喜びでした。

ここまでこれたのは、私の一番の理解者だった主人のアドバイスと一番の協力者だった娘たち家族、炎舞連の仲間たち、本当に多くの人たちに支えられ、励まし、勇気づけられてここまで来ることができたことに心からお礼、感謝致します。

最後に蘇原の歩行者天国おどりん祭が、桜まつり同様に市の行事として

認められ、もっと多くの方々にスタッフとして協力していただけることを願います。

これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

ご覧になりましたか、議会中継

9月議会より開かれた議会を目指して、
議会中継（ライブ、録画）を開始しました
市ウェブサイト「市議会」からアクセスを
<http://kakamigahara.gijiroku.com/video/>
次の定例会は、11月27日開会予定です



議会素描

▼9月定例会は前年度決算を審査・検証する議会へ。
12月は来年度予算に議会の意思を反映させる議会へ。

▼健康福祉分野の質問が集中。

人にやさしい都市へ市民は注目。

▼いよいよ着工した（仮称）各務原大橋。

未来へ希望の架け橋になるか。

▼政権交代により地方分権が進む。

これから、「市議会だより」を市民との対話にもっと活用したい。

▼地球の裏側からも一般質問の様子がライブと録画で視聴できます。便利です。少し怖い気も。

* * *

市議会だより編集委員会

◎梅田利昭

◎池戸一成

水野岳男、川嶋一生

杉山元則、高島貴美子

(◎委員長◎副委員長)